

幼 児 の 教 育

昭和六年六月

先生方よ、睡眠を充分とつて置いて下さい。

教育者のつとめ、そんなことは、もう言ふまでもありますまい。教育者としての熱心、それは充分敬意を感じて居ります。しかし、分つてゐても、氣はあつても、疲れてゐては一ぱいの生活は出来ません。ところで、子どもの求めてゐるもの、子どものために今必要なものは、自分達といつしよに生活して下さる、あなたの生活ですからね。しかも、子ども自身が、ひととほりでない生き／＼した生活者なのですからね。

その生き／＼した子どもの生活の中に一つしよにゐて下さる爲に、あなたも最大限度に生き／＼してゐて下さらなければならない。ならないといふよりも、そうでないと子どもが承知しません。若し、あなたが疲れてゐると、その爲にんだかばんやりでもしてゐらつしやるとあなたにも氣の毒ですが子どもにも氣の毒です。無意識な失望者とも言つたようなものに子どもがなりますからね。そんな時、子どもは、けごんな顔をしてあなたの顔を眺めたりします。あれです。

と言つて、あなたのお疲れも充分お察します。相手が並みはづれ生き／＼してゐる、疲れといふものを知らない子どもなのですからね。誰れだつて一日々々ぐつたりです。それを思ふと、傍から何もいへないことなのですが、子ども達もお宅まで追つかけてゐるのではありません。夜までお邪魔してゐるのではありません。どうぞ一時間でも三十分でも、よき睡眠を充分にとつて下さいと、それだけは是非言ひたいのです。

夏の夜は明け易い。御用も、社交もありでせうが、また明日のあることです。明日の生き／＼した生活を一ぱいにしなければならぬのです。先生よ、睡眠を充分にとつて置いて下さい。